

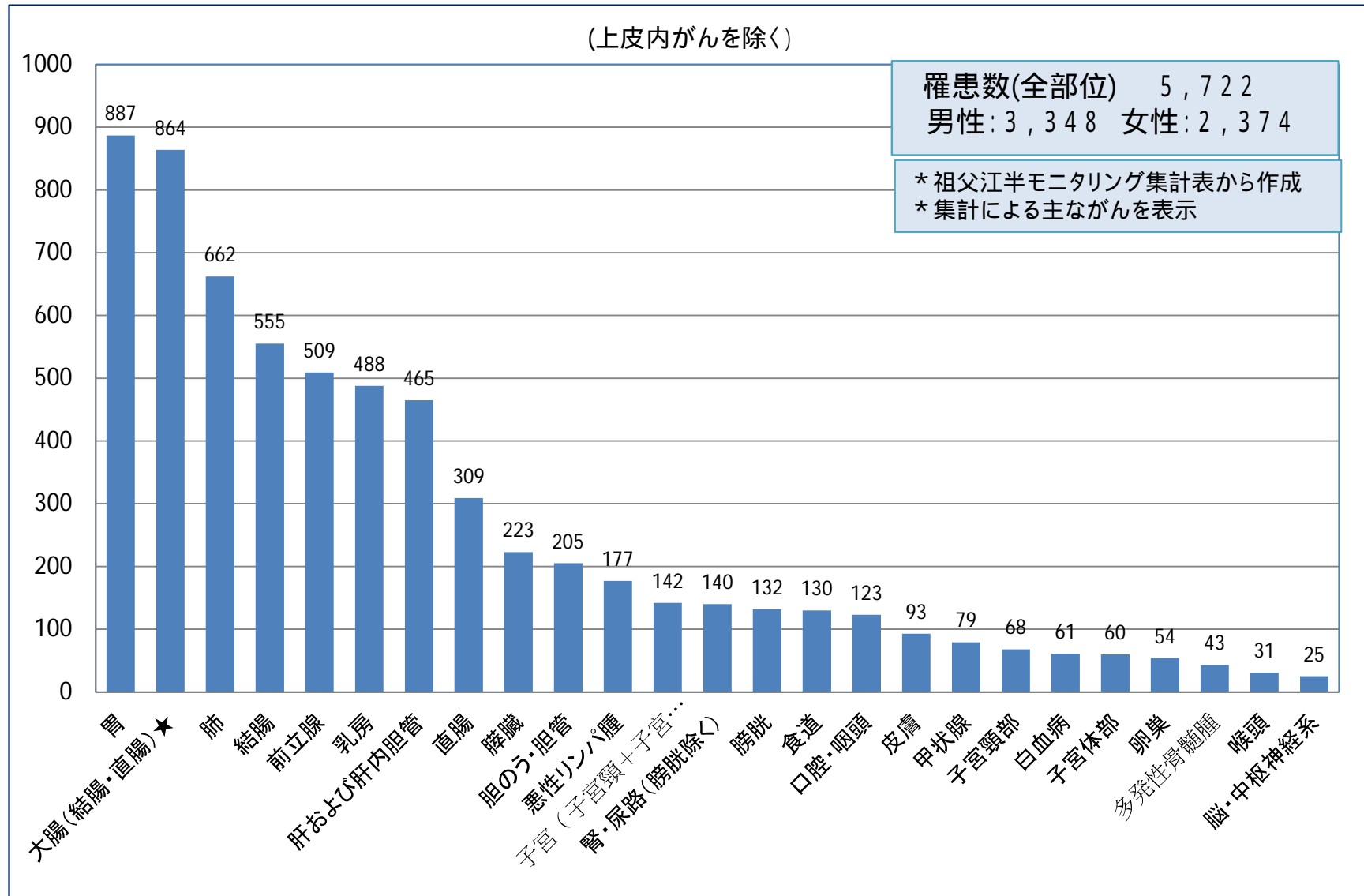
2009年

山梨県がん罹患  
集計結果

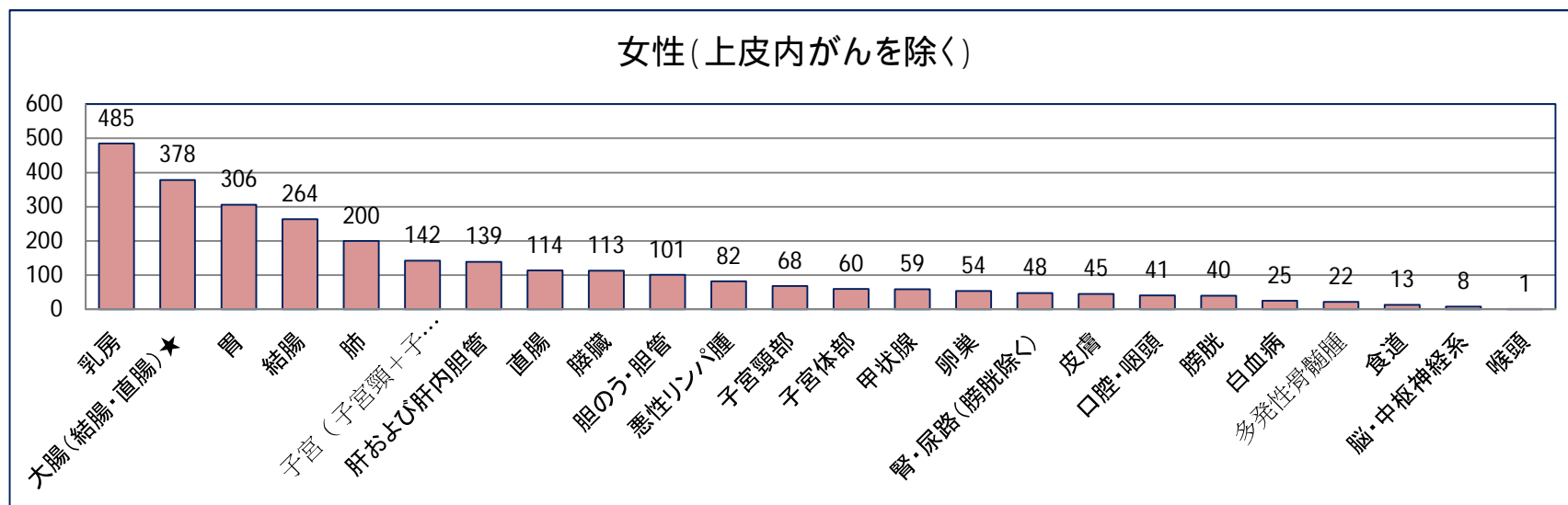
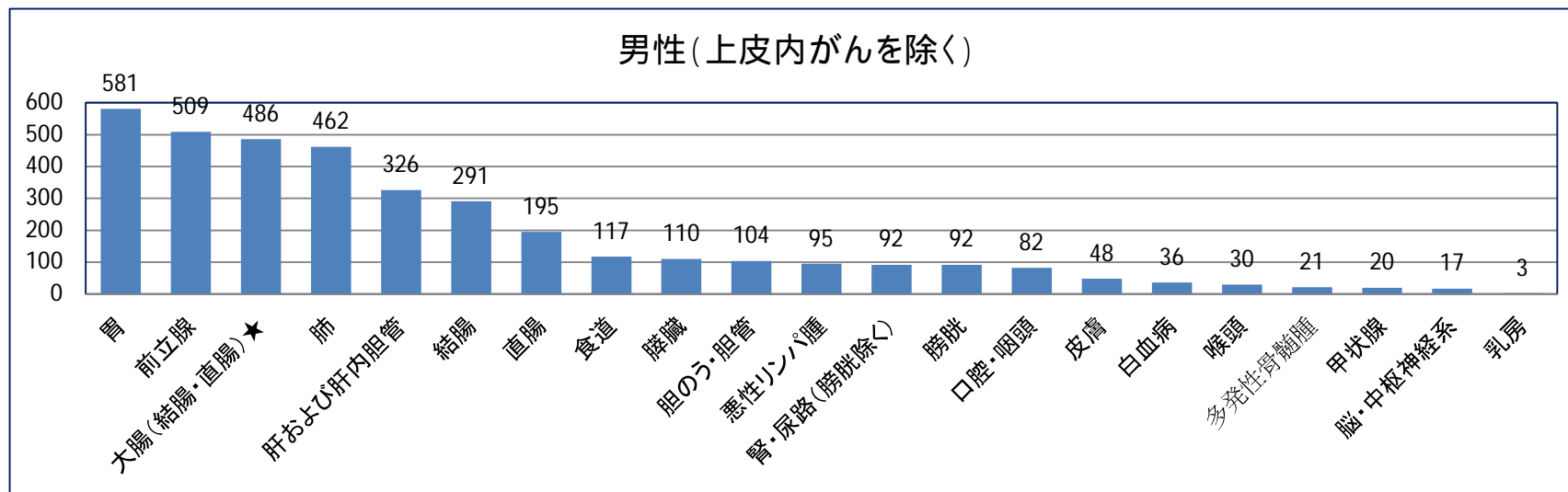
(確定値)

2013年9月集計

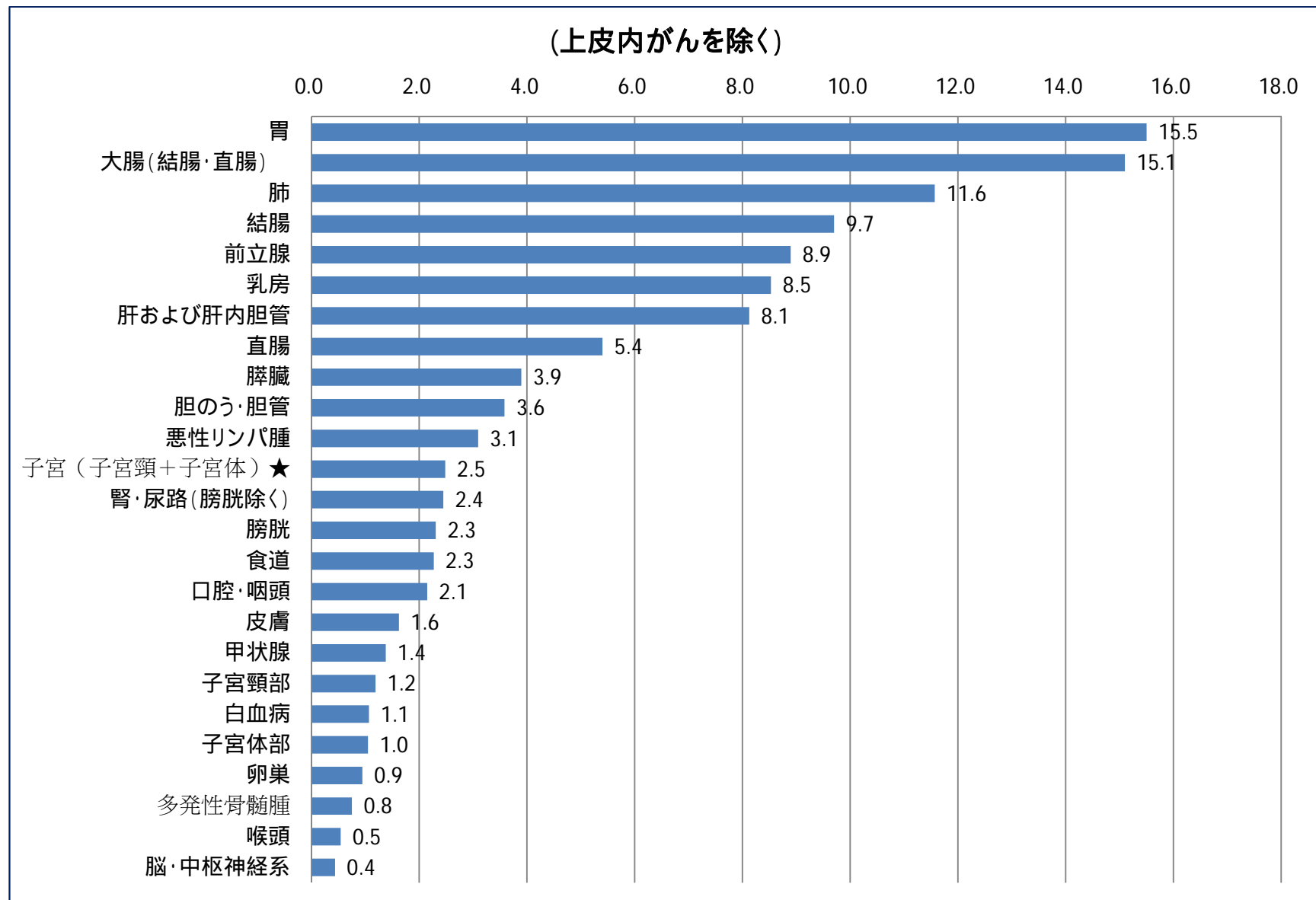
# A 2009年山梨県がん罹患数(全体)(件)



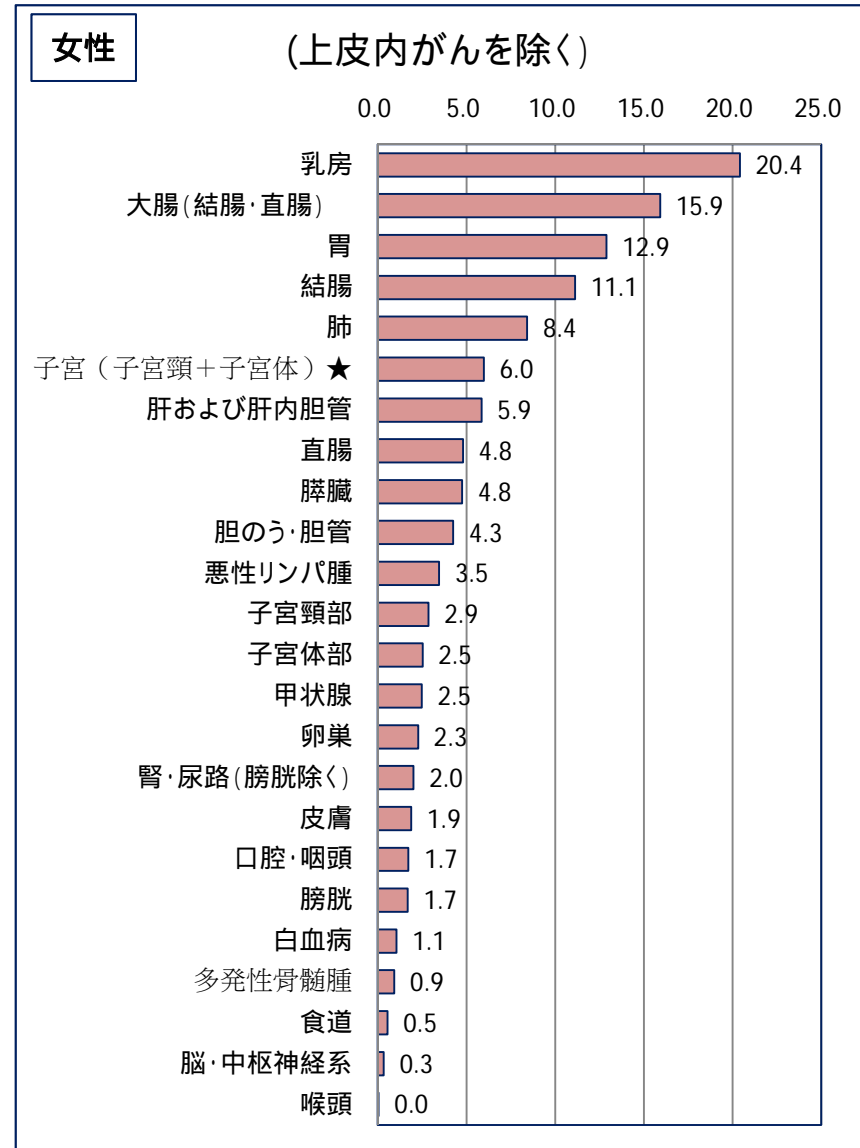
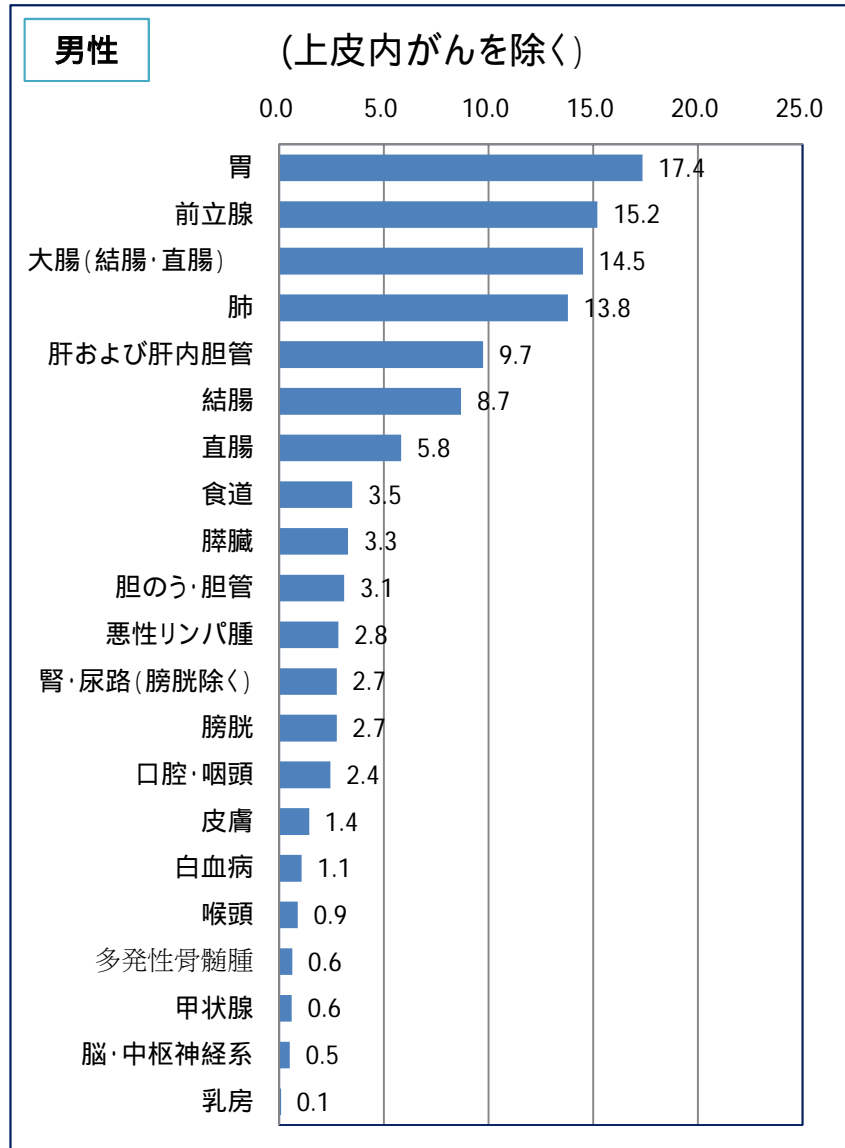
# B 男女別・部位別罹患数(件)



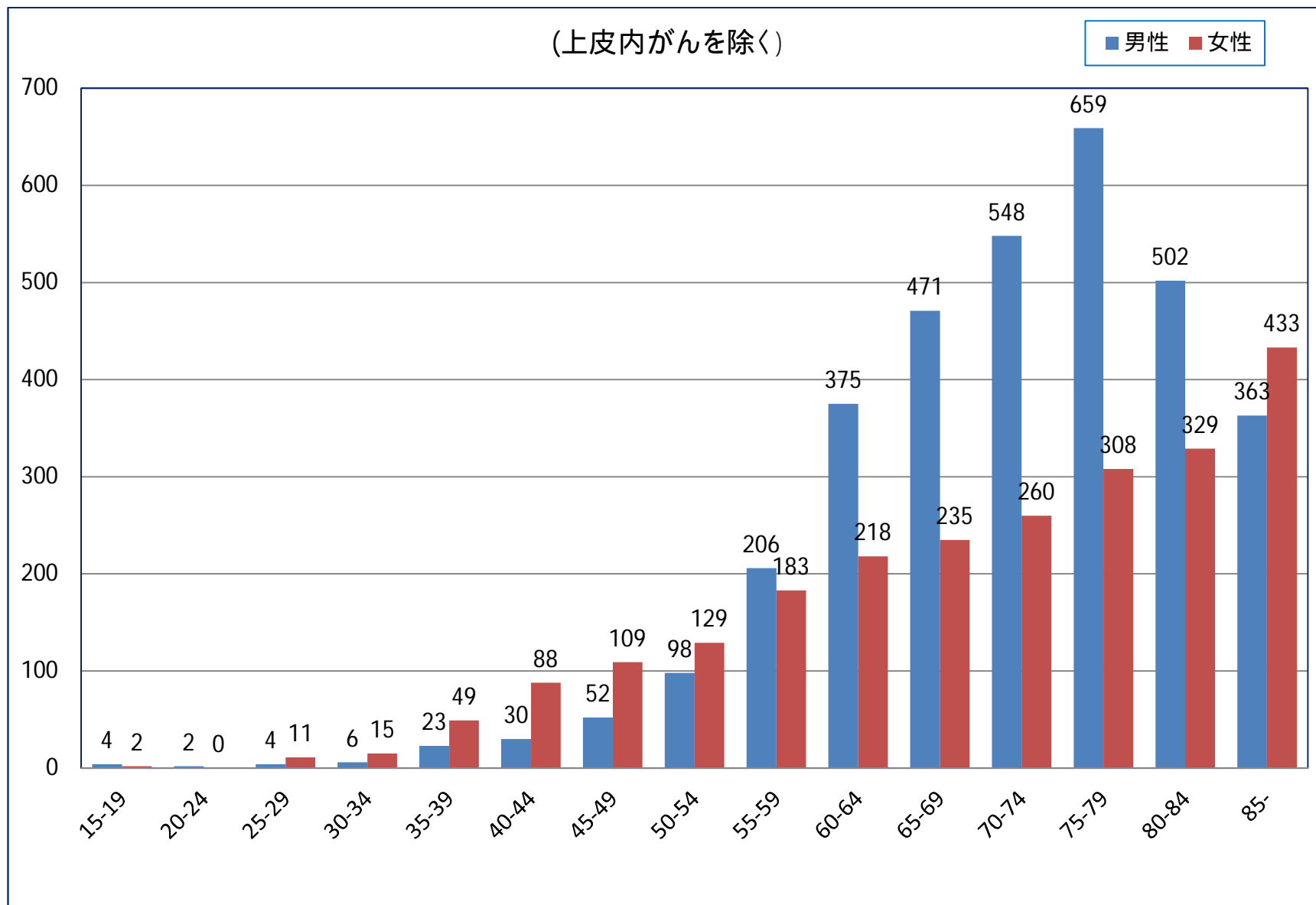
# C - 1 罹患割合(%)・全体



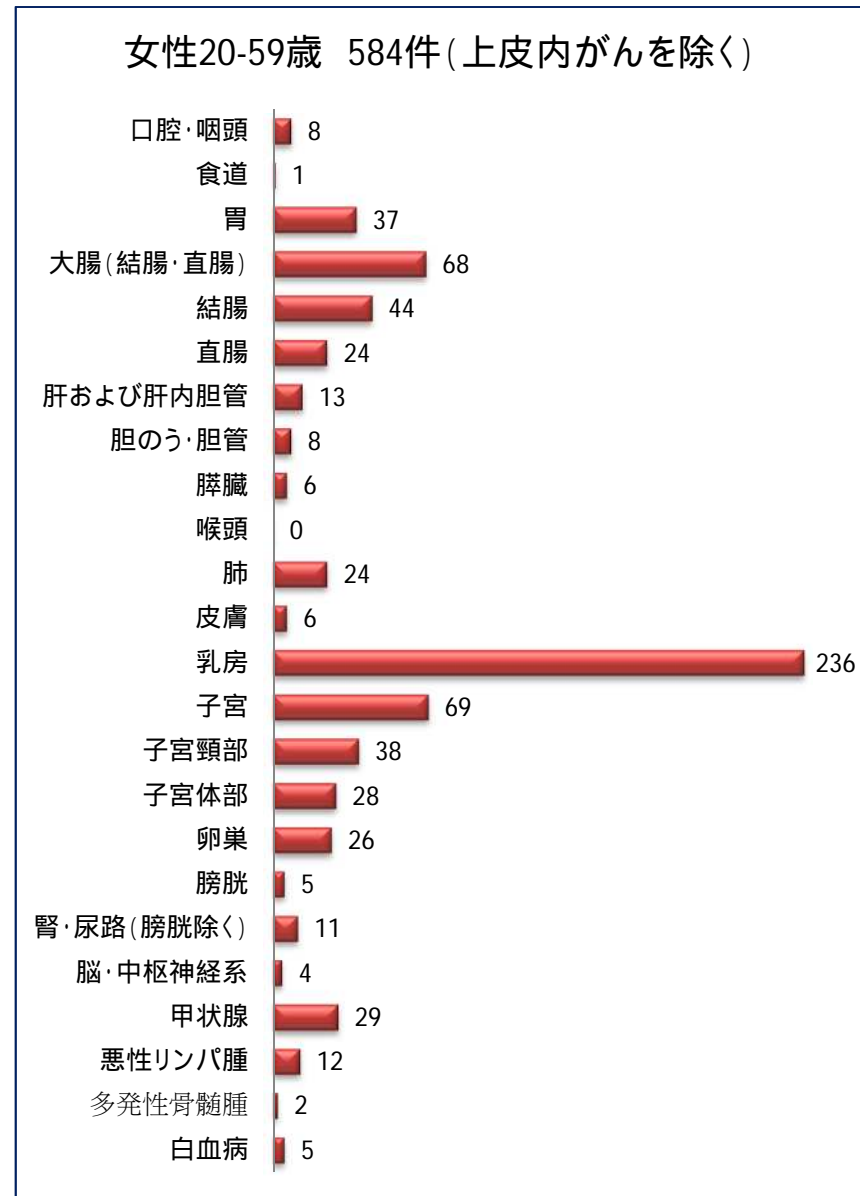
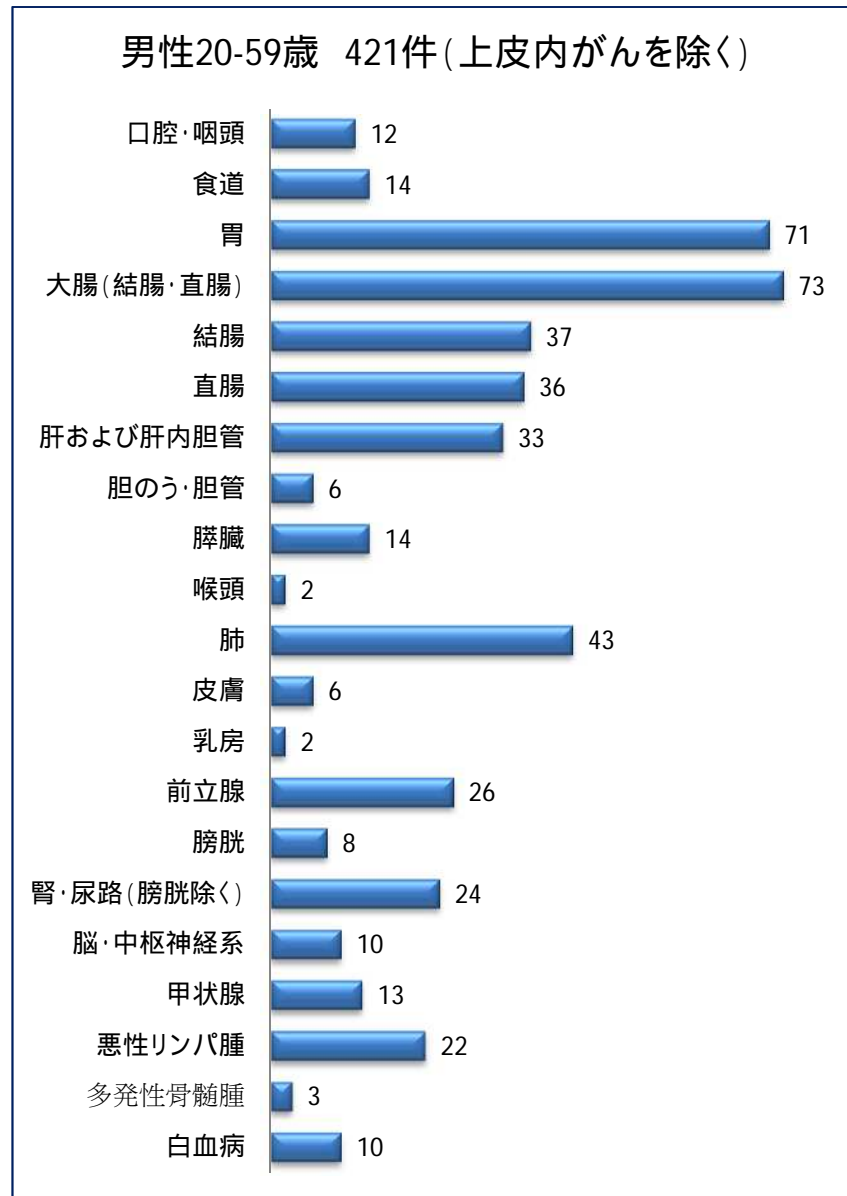
# C - 2 罹患割合・男女別 (%)



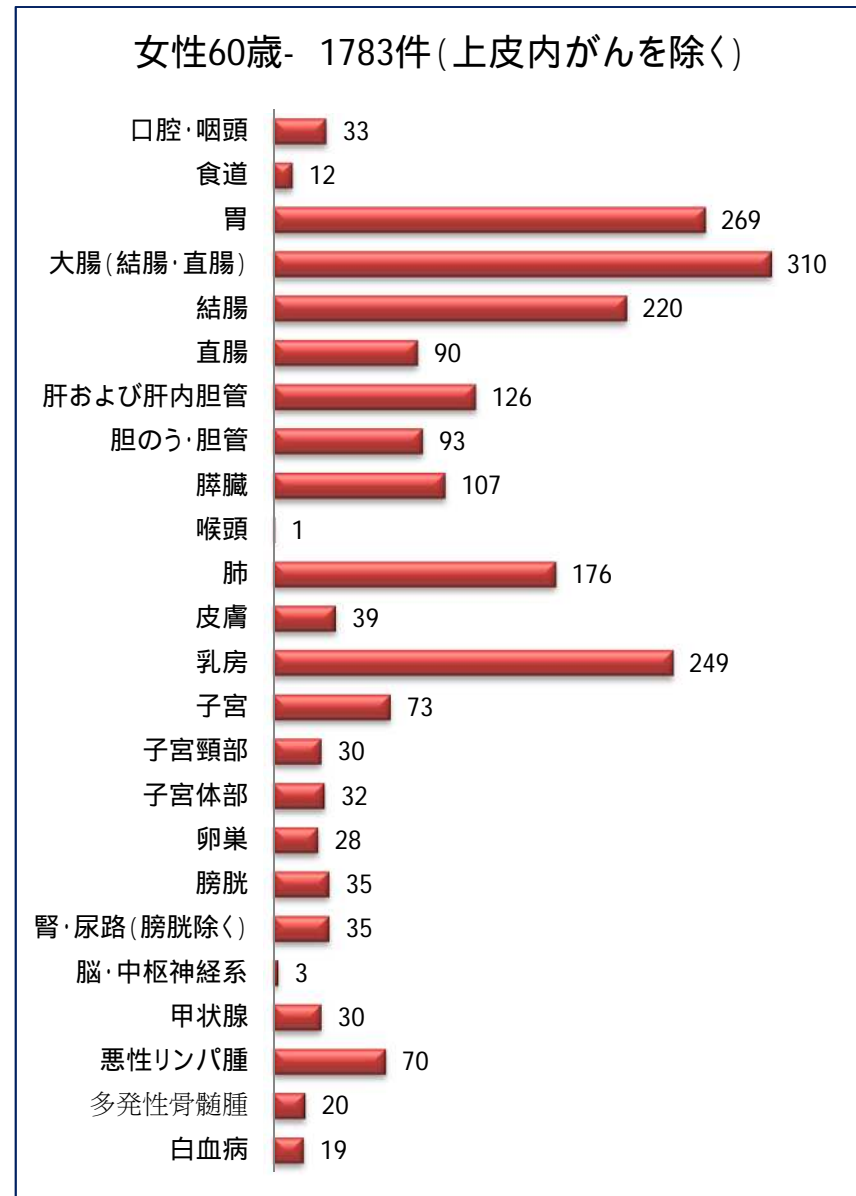
# D-1 年齢階級別・男女別罹患数(件)



## D - 2 年齢別・部位別罹患数 / 20歳～59歳(件)



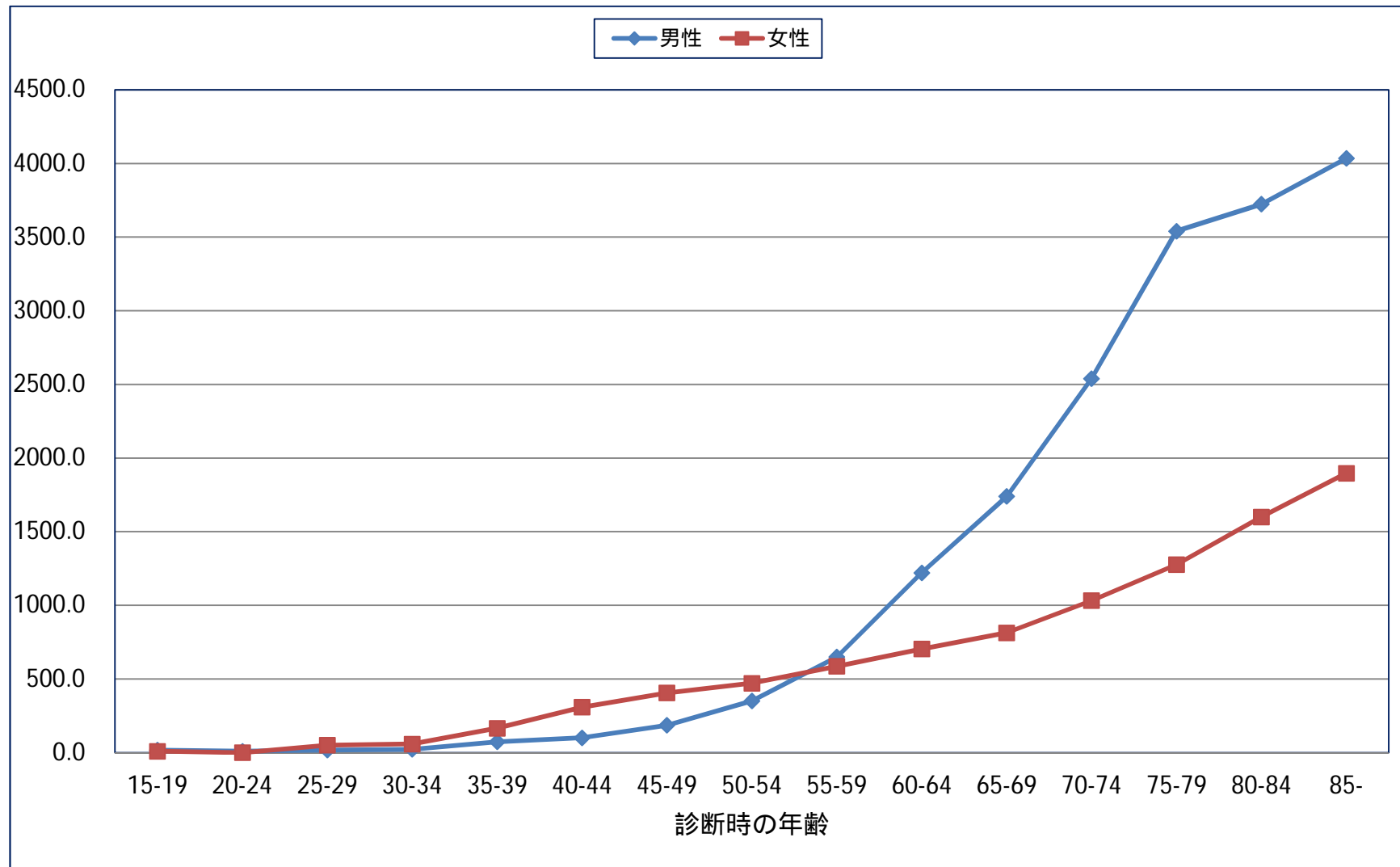
## D - 3 年齢別・部位別罹患数 / 60歳以上(件)



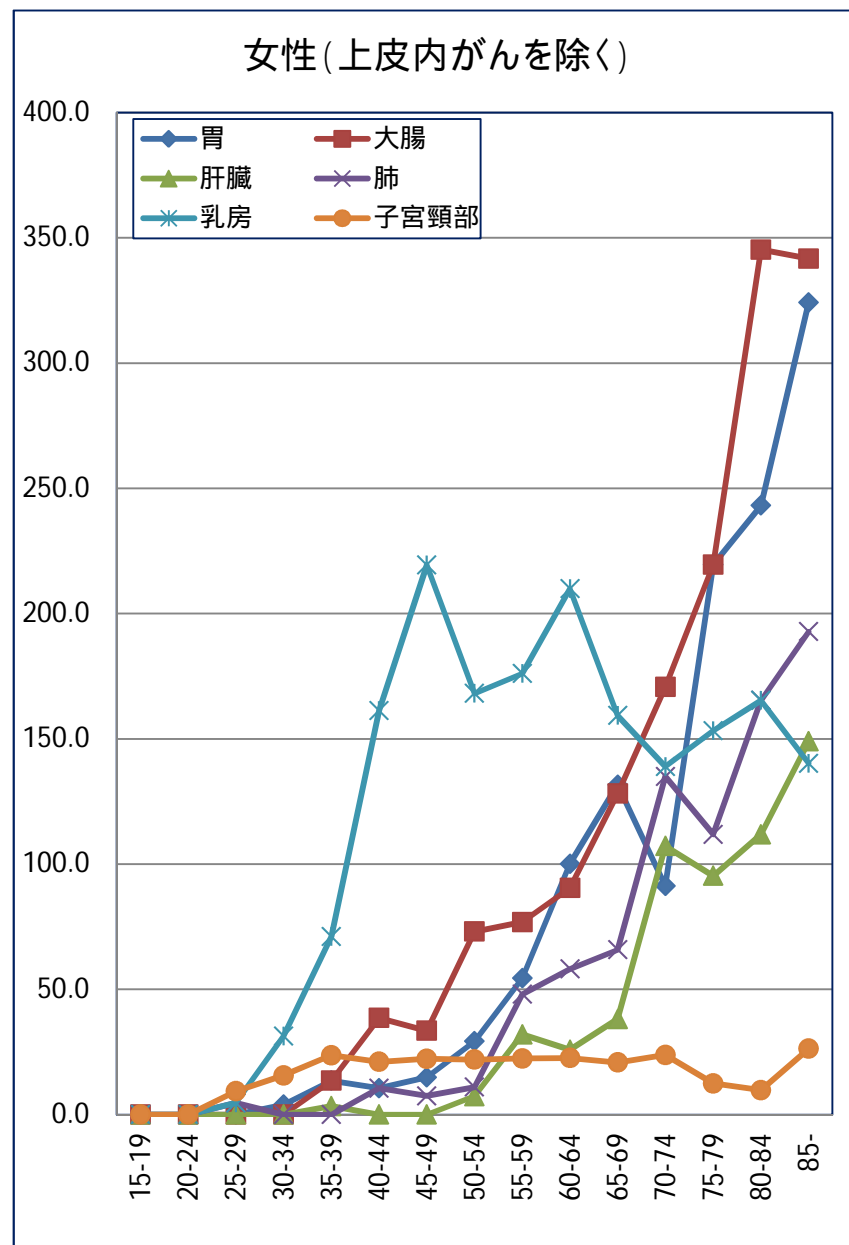
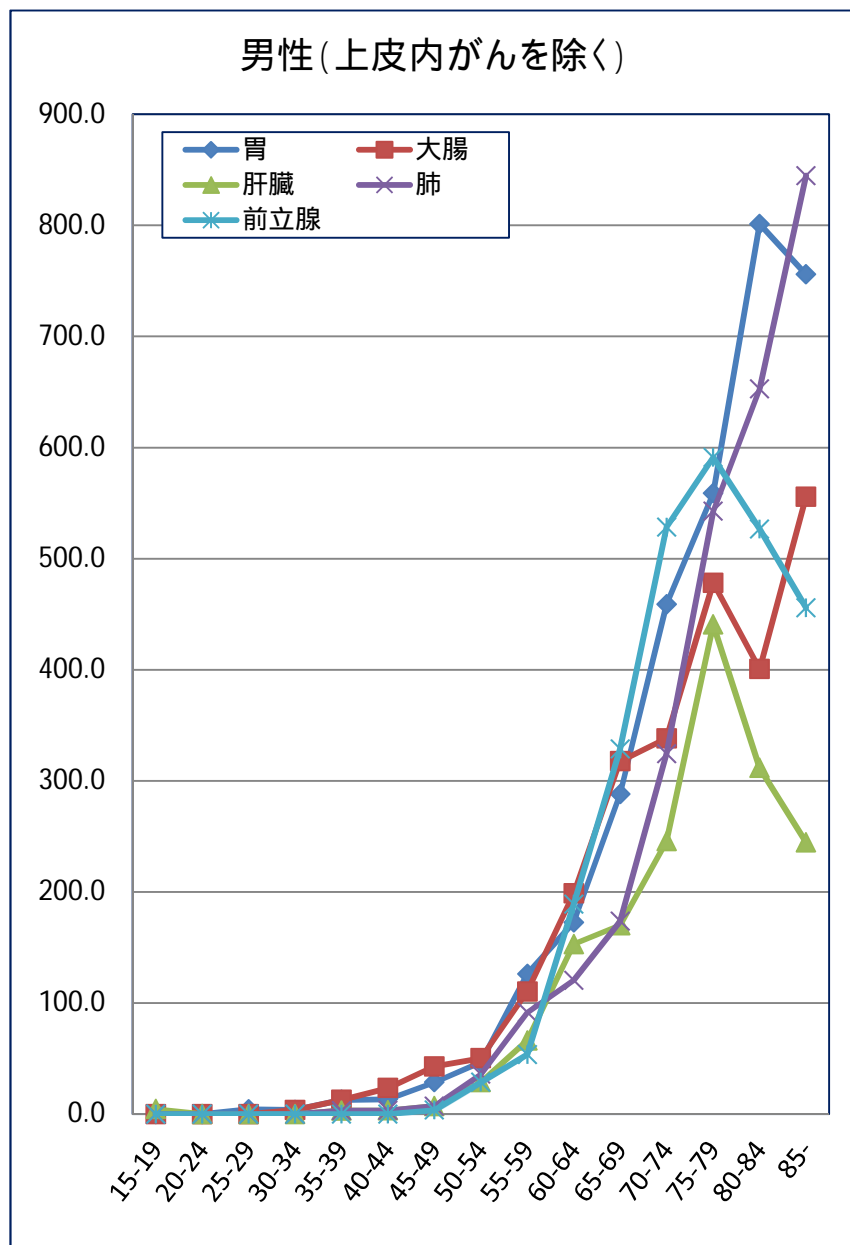


# E - 1 部位別年齢階級別罹患率(人口10万対)

全部位(上皮内がんを除く)

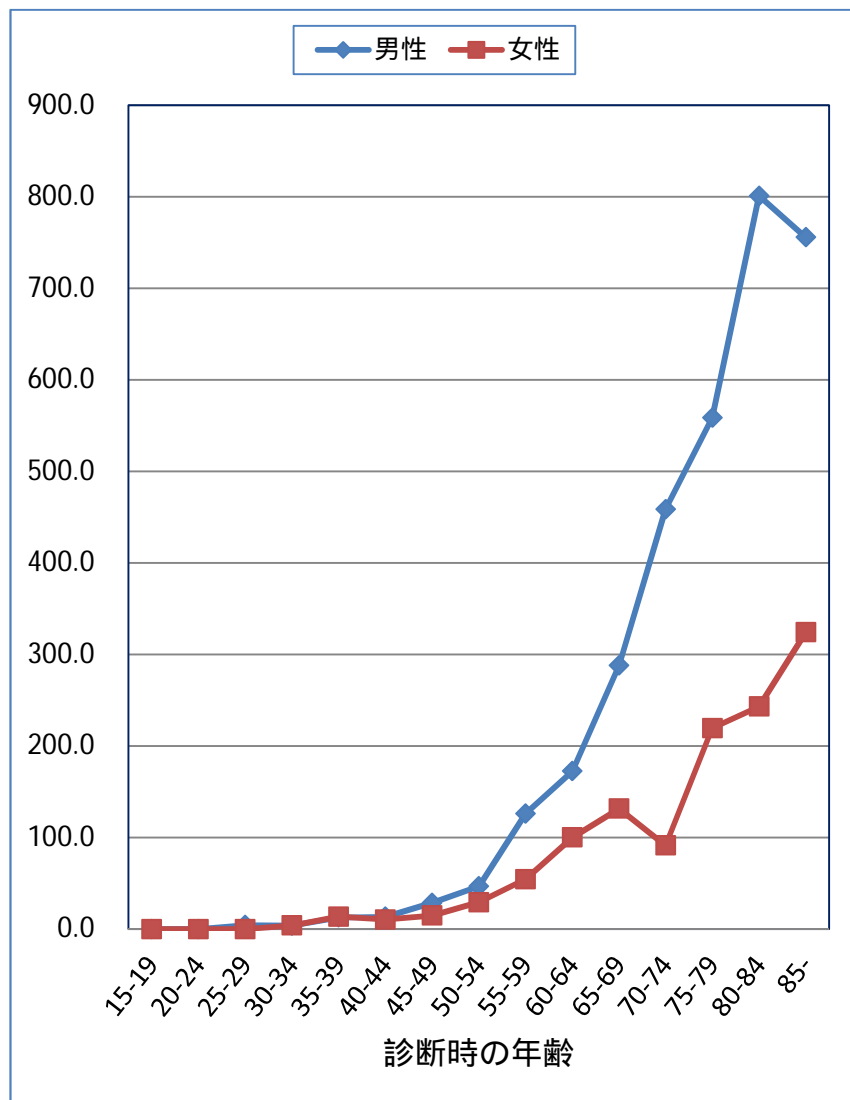


## E - 2 部位別年齢階級別罹患率(人口10万対)

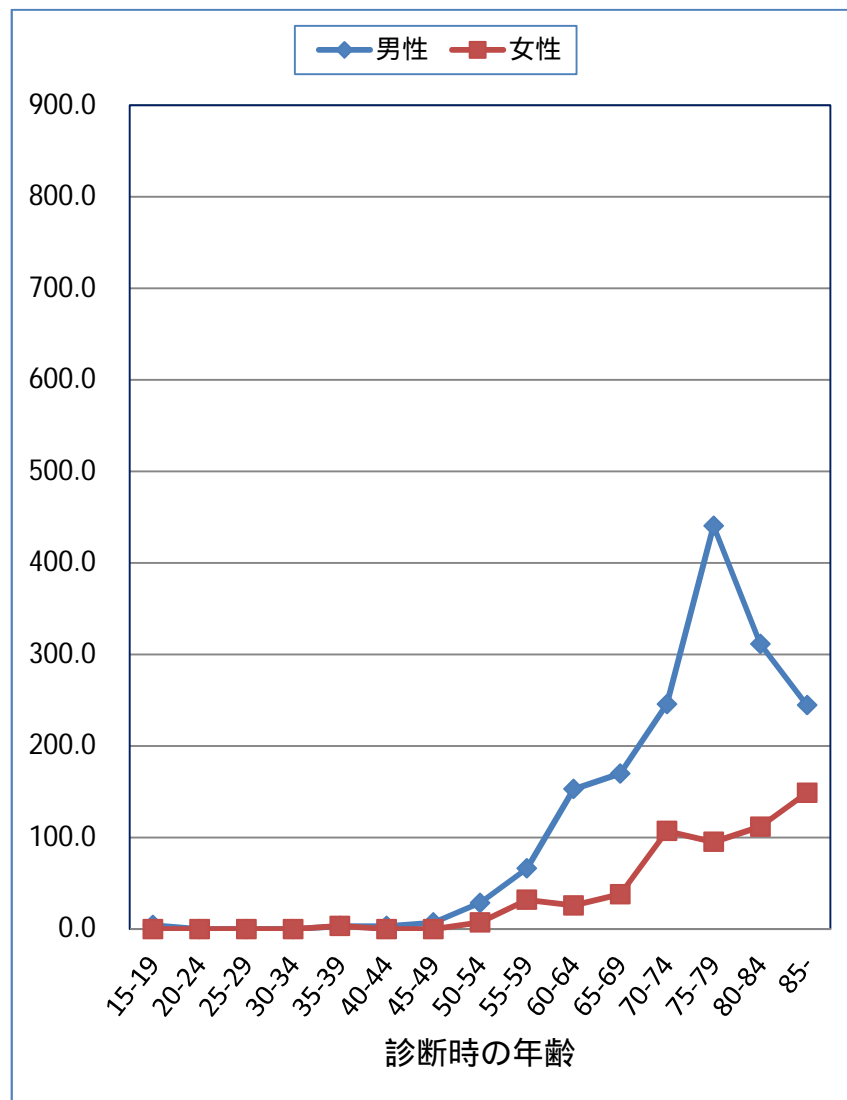


# E - 3 部位別年齢階級別罹患率(人口10万対)

## 胃がん(上皮内がんを除く)

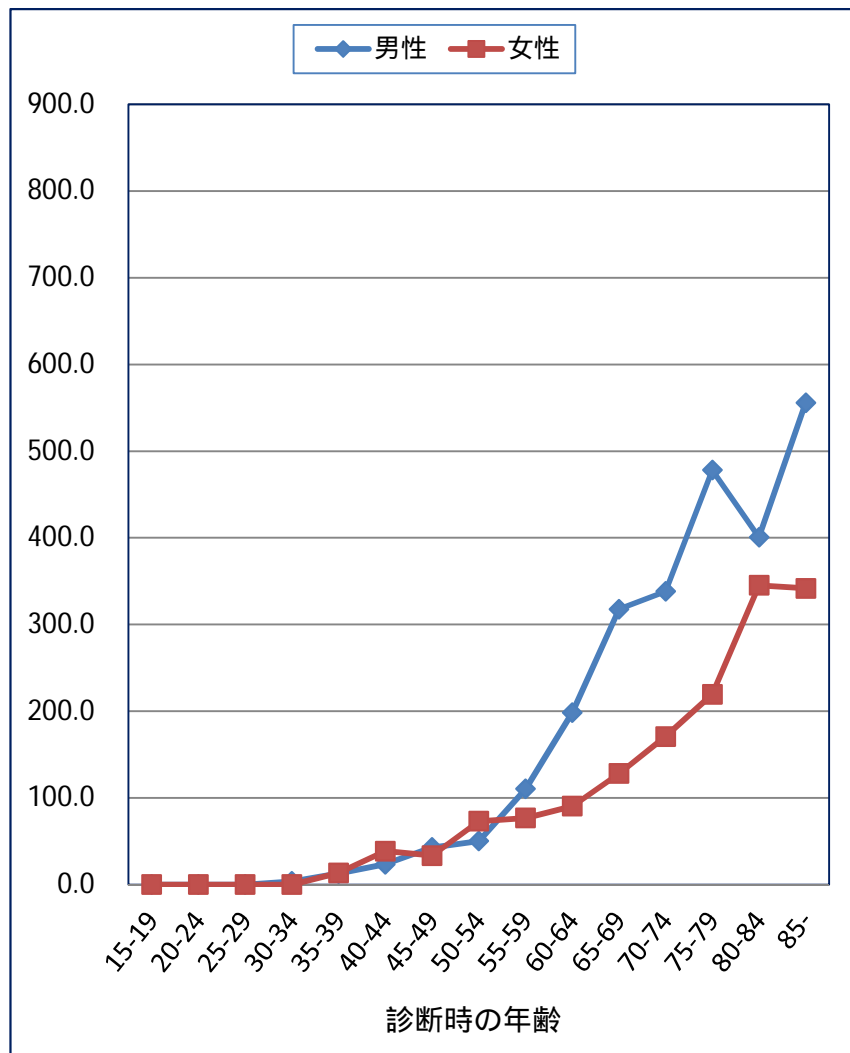


## 肝がん(上皮内がんを除く)

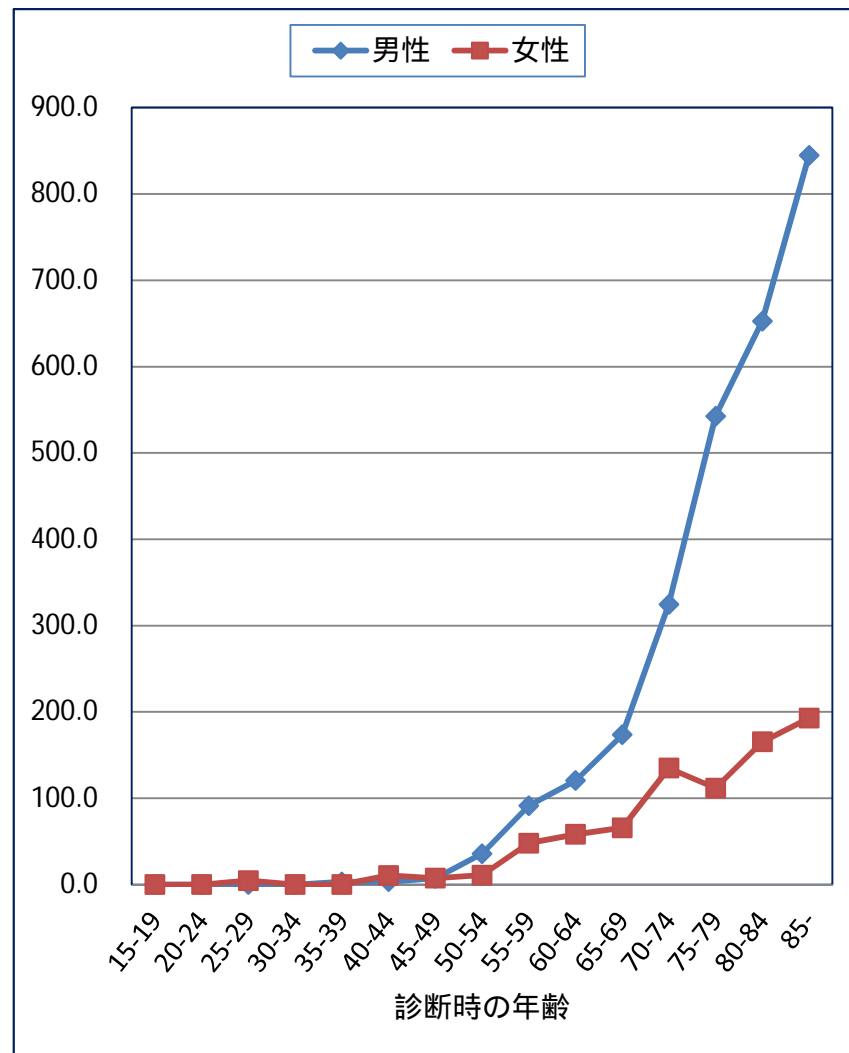


# E - 4 部位別年齢階級別罹患率(人口10万対)

## 大腸がん(上皮内がんを除く)

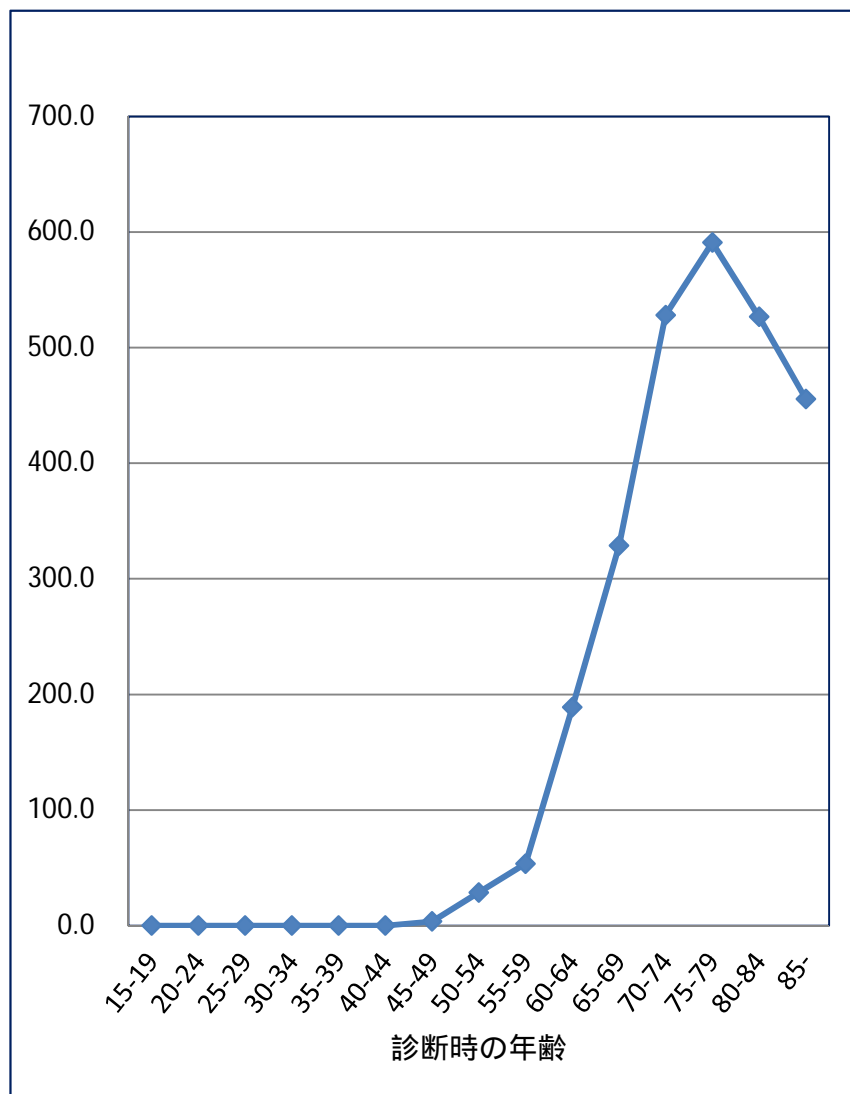


## 肺がん(上皮内がんを除く)

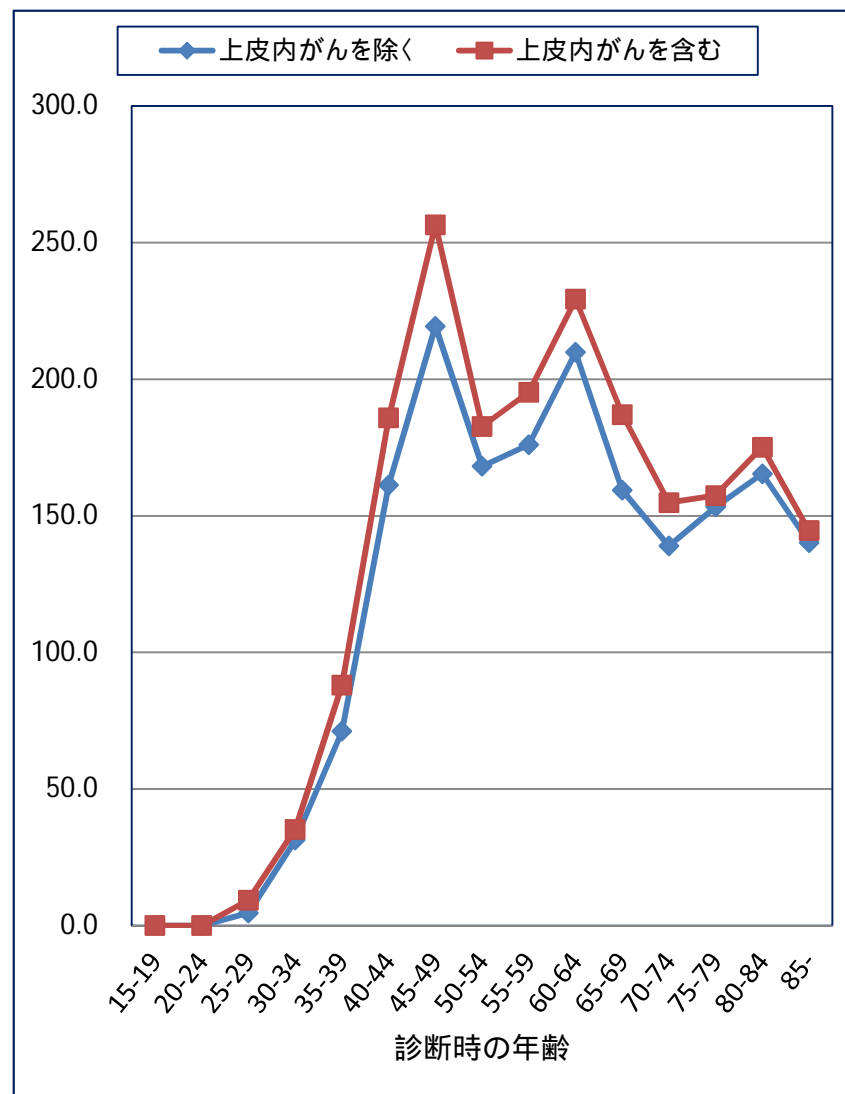


# E - 5 部位別年齢階級別罹患率(人口10万対)

前立腺がん(上皮内がんを除く)

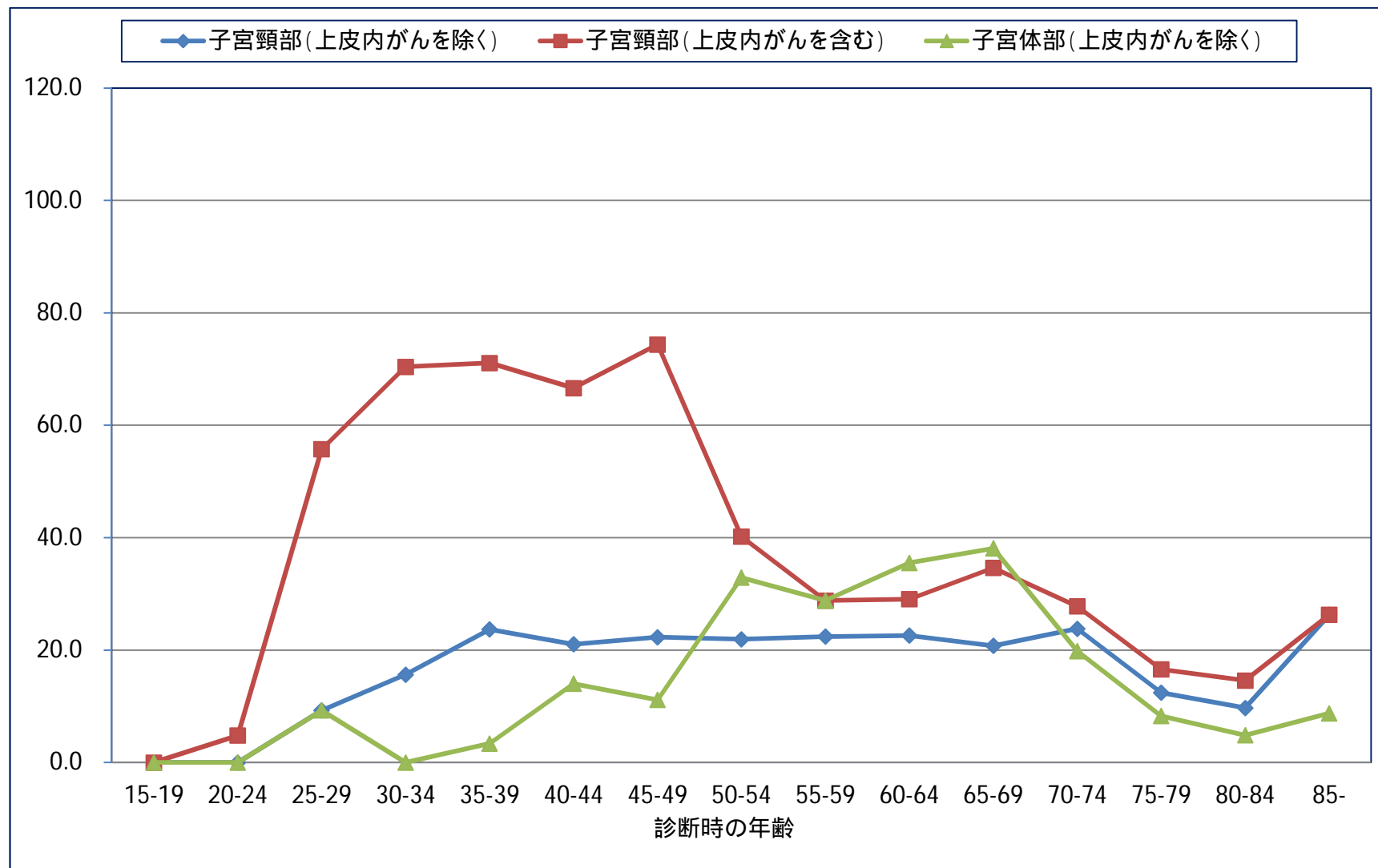


乳がん

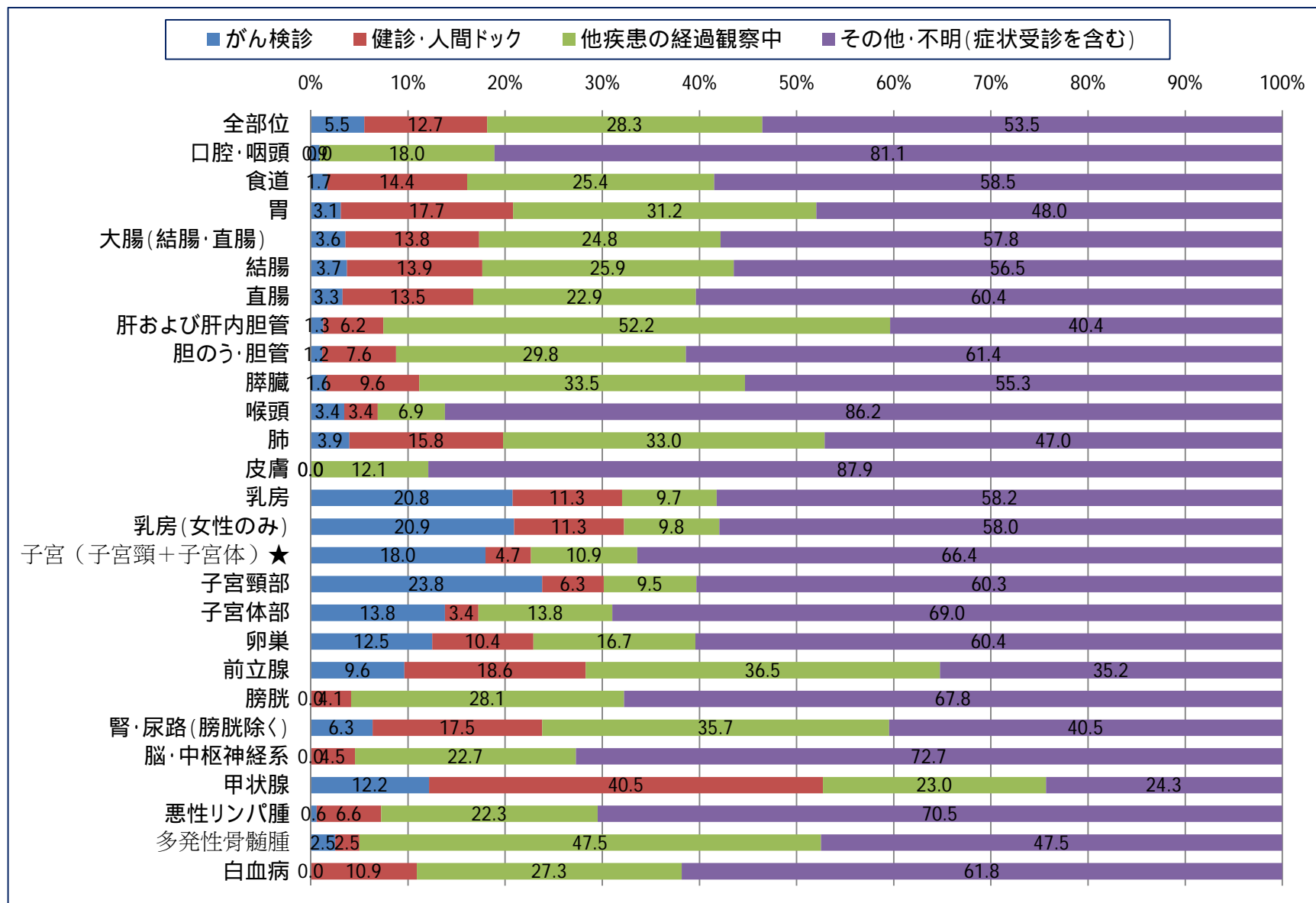


# E - 6 部位別年齢階級別罹患率(人口10万対)

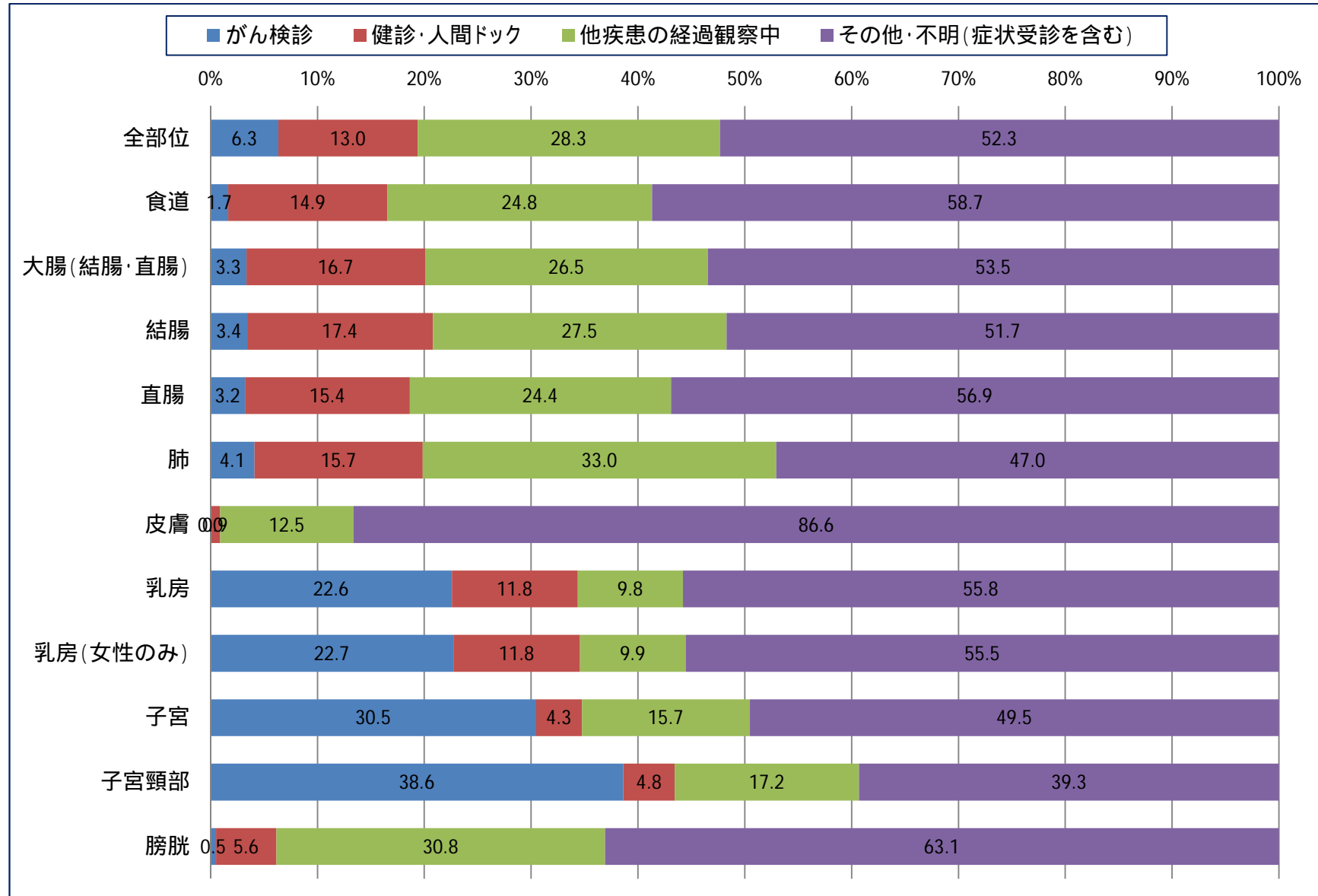
## 子宮(子宮頸部・子宮体部)がん



# F - 1 発見経緯 (上皮内がんを除く) (%)

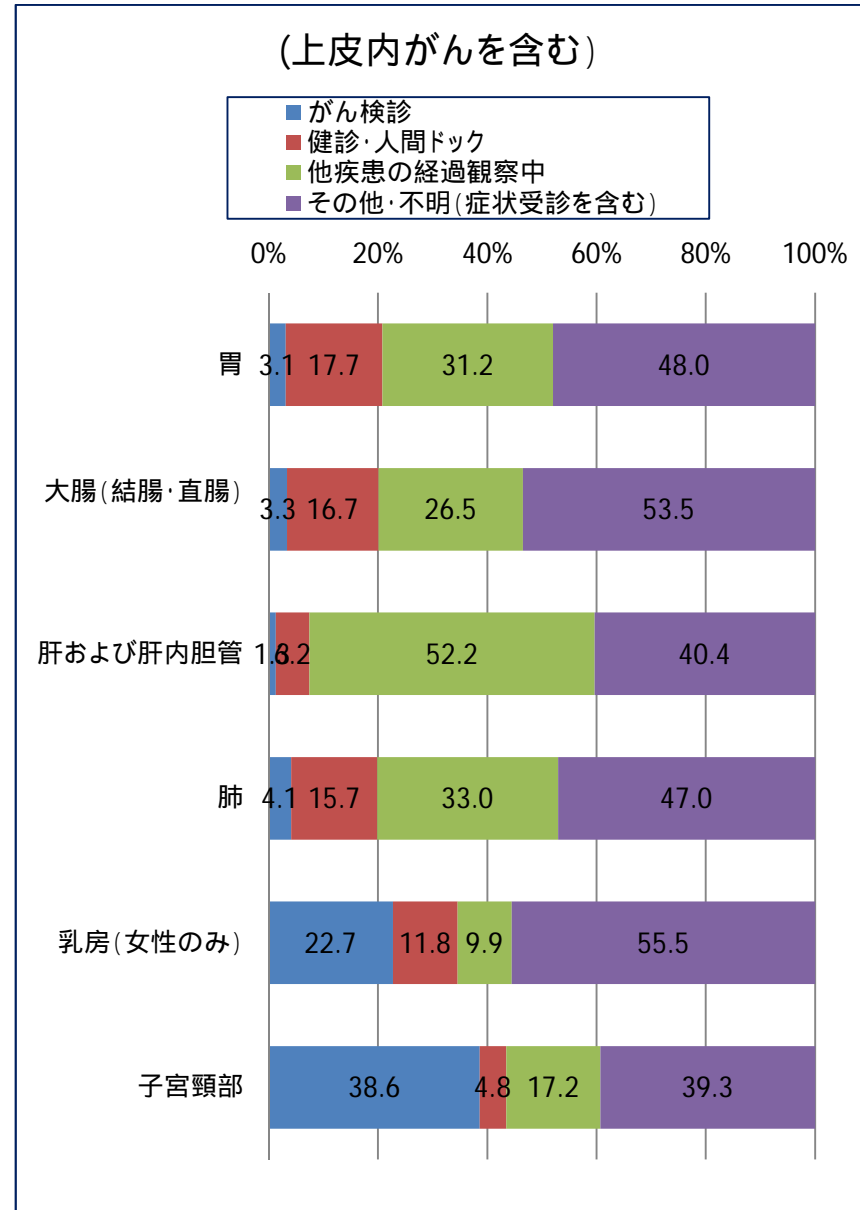
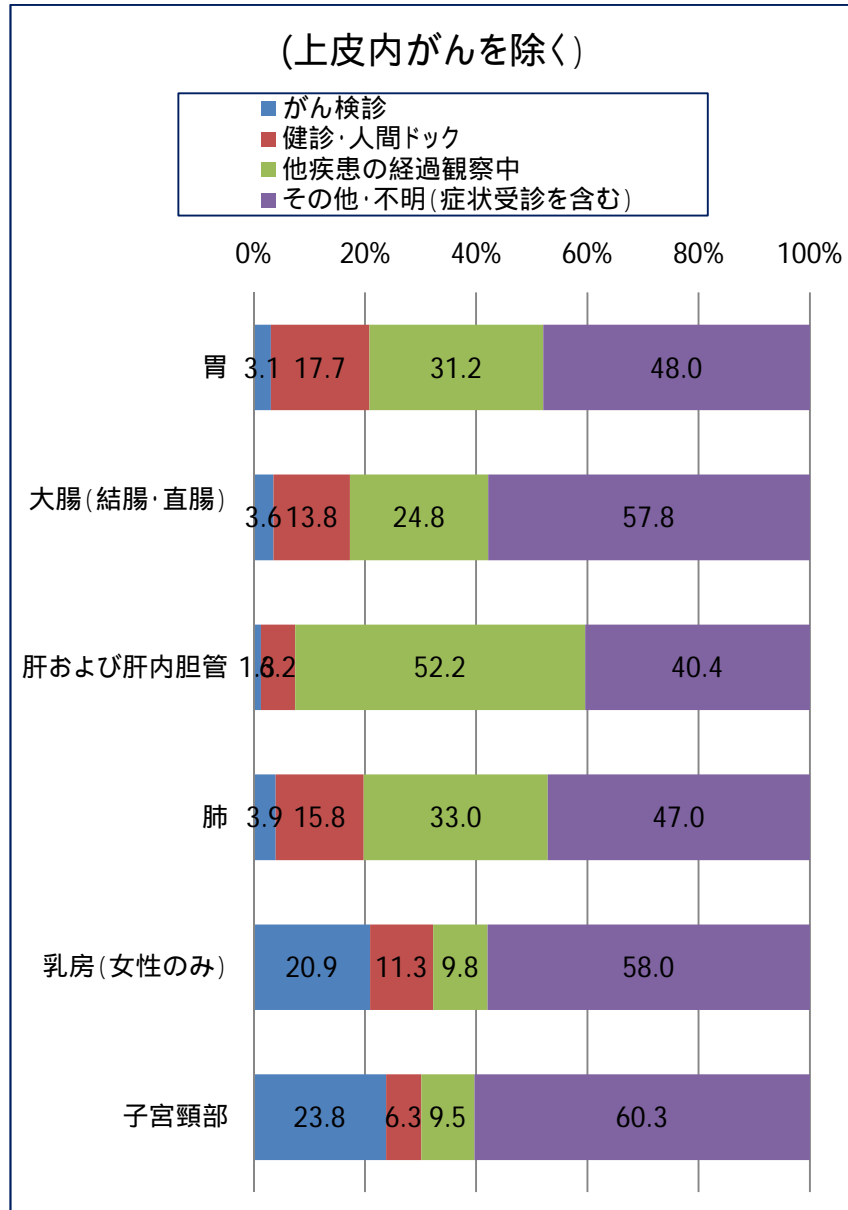


## F - 2 発見経緯(上皮内がんを含む)(%)

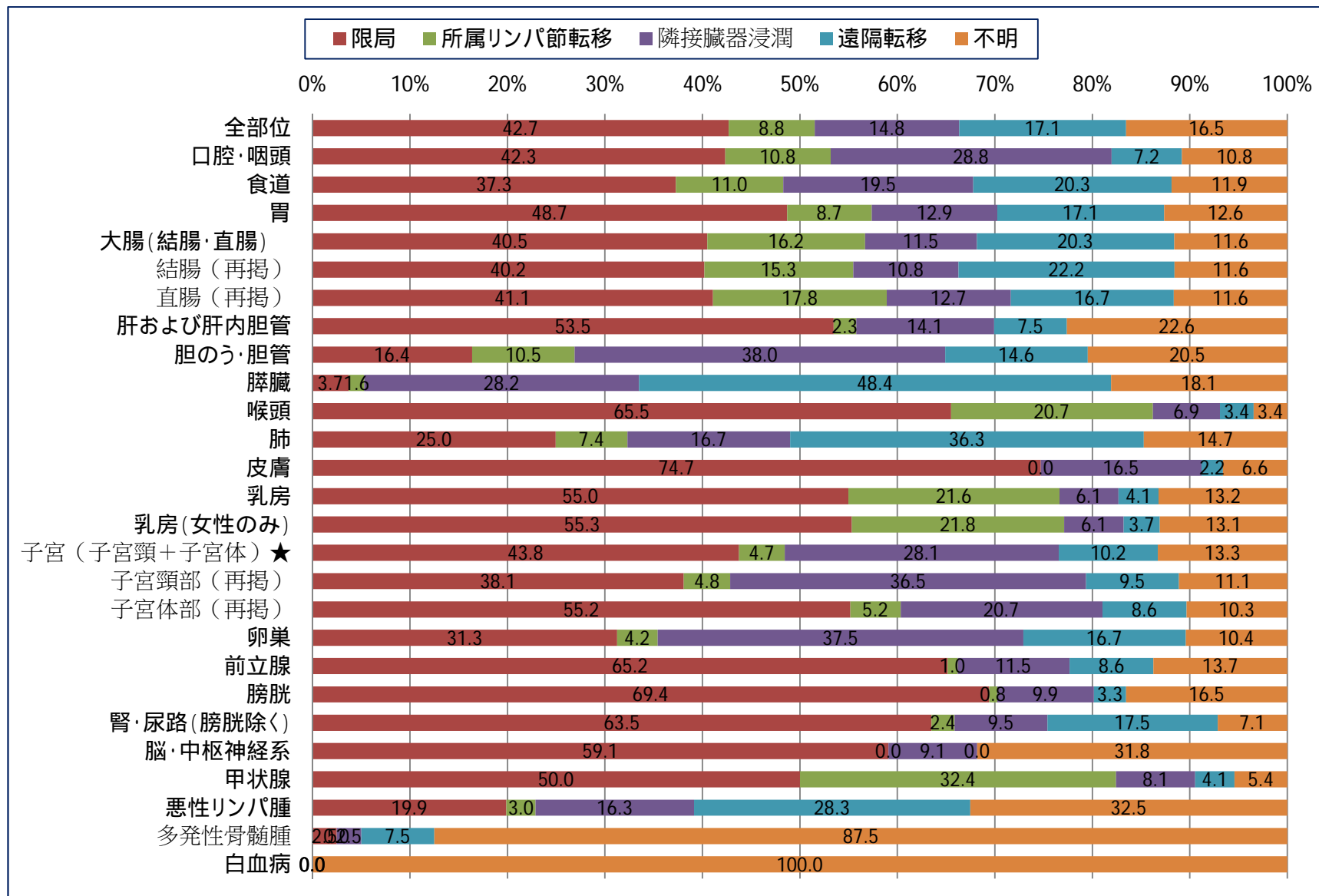




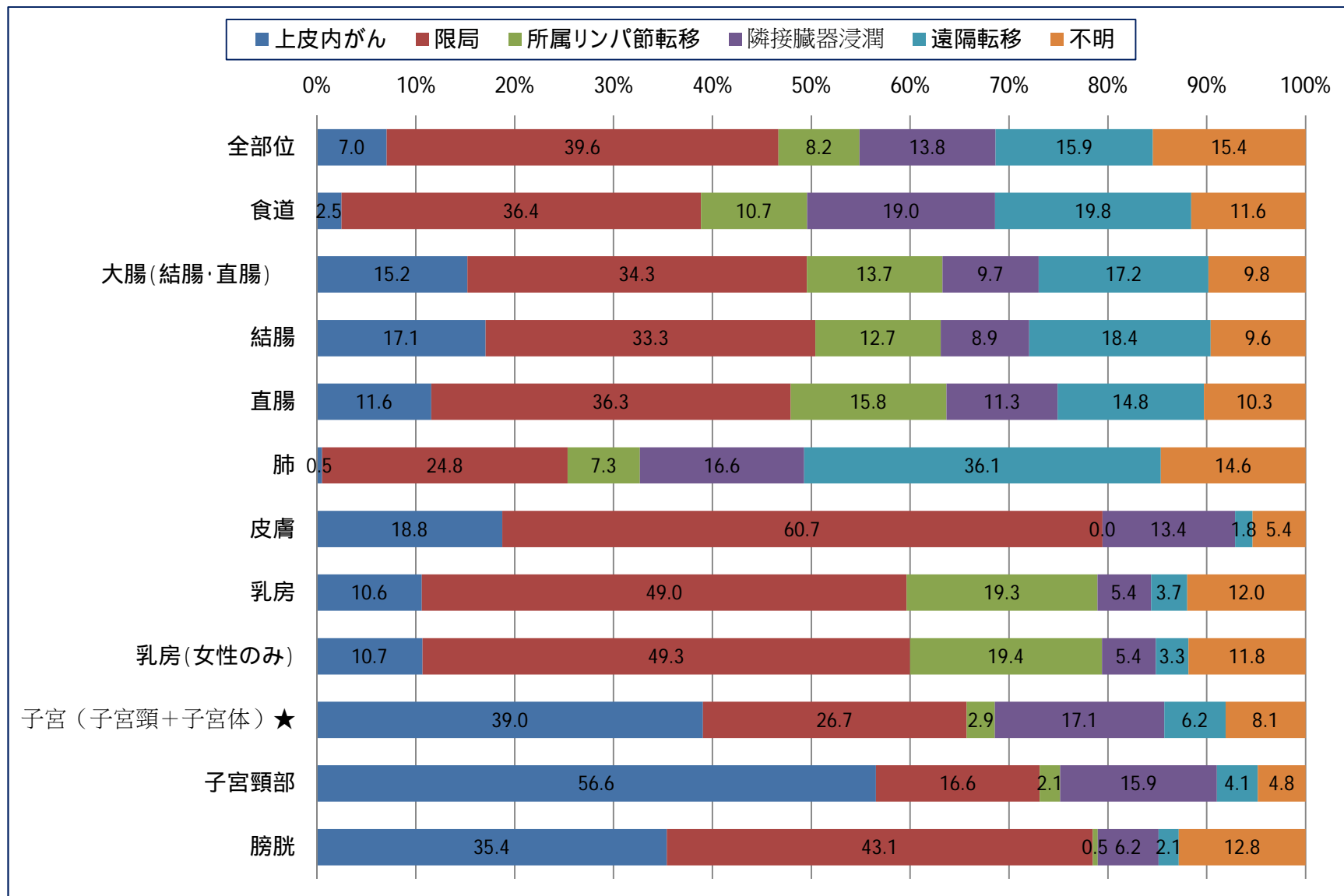
# F - 3 発見経緯 (5大がん + 肝がん) (%)



# G - 1 臨床進行度(上皮内がんを除く)(%)



## G - 2 臨床進行度(上皮内がんを含む)(%)



# データの精度

- 山梨県のデータ精度はMCIJ掲載基準を満たしている。
- 全国に比べDCNは高いが、DCOは低く、精度は高い。

		DCN		DCO	
		上皮内がん (除く)	上皮内がん (含む)	上皮内がん (除く)	上皮内がん (含む)
MCIJ掲載基準		30%未満		25%未満	
全国	2009年(MCIJ)	20.1%		13.4%	
山梨県	2008年(確定値)	29.8%	28.1%	11.8%	11.1%
	2009年(確定値)	25.1%	23.5%	10.2%	9.6%

- MCIJ : 全国がん罹患モニタリング集計
- DCN : death certificate notifications 死亡診断書で初めて把握されたがん症例
- DCO : death certificate only 死亡診断書以外の情報がない症例

# まとめ

## 1. 罹患数

山梨県での、2009年の1年間のがん罹患数は5,722件

男性:3,348件 女性:2,374件

2008年の罹患数と単純に比較すると、33件減少しており、男性では18件、女性では15件の減少がみられた。

	2008年(確定値)	2009年(確定値)
全体	5,755	5,722
男性	3,366	3,348
女性	2,389	2,374

注：地域がん登録は1腫瘍1登録であり、多重がんもあるため「がん罹患人数」ではない

# まとめ

## 2. 部位別罹患数・罹患割合

1位が「胃」887件、2位が「大腸(結腸+直腸)」864件、3位が「肺」662件となっており、2008年と比べ、「大腸」と「胃」の順位が入れ替わった。

2008年の罹患数と比べ増加したのは、79件増の「前立腺」、67件増の「乳房」、28件増の「胃」、減少したのは、54件減の「大腸」、51件減の「甲状腺」、27件減の「白血病」であった。

罹患数はやや減少している。

部位別の全罹患数に占める割合は、2008年と比較すると、「前立腺」が1.4%の増、「乳房」が1.2%の増、「大腸」0.9%減となっている。

	2008年		2009年	
	部位	罹患数(割合)	部位	罹患数(割合)
1位	大腸	918(16.0%)	胃	887(15.5%)
2位	胃	859(14.9%)	大腸	864(15.1%)
3位	肺	676(11.7%)	肺	662(11.6%)

# まとめ

## 3. 男女別罹患数順位

男性は、「胃」581件、「前立腺」509件、「大腸」486件、「肺」462件、「肝および肝内胆管」326件の順であった。

2008年の罹患数と単純に比較すると、増減の大きかったのは、79件増の「前立腺」、54件減の「大腸」19件減の「肺」であった。

女性は「乳房」485件、「大腸」378件、「胃」306件、「肺」264件、「子宮(子宮頸部 + 子宮体部)」142件の順であった。

2008年の罹患数と単純に比較すると、増減の大きかったのは、26件増の「胃」、36件減の「甲状腺」、14件減の「肝および肝内胆管」であった。

男性	2008年	2009年
1位	胃	胃
2位	大腸	前立腺
3位	肺	大腸

女性	2008年	2009年
1位	乳房	乳房
2位	大腸	大腸
3位	胃	胃

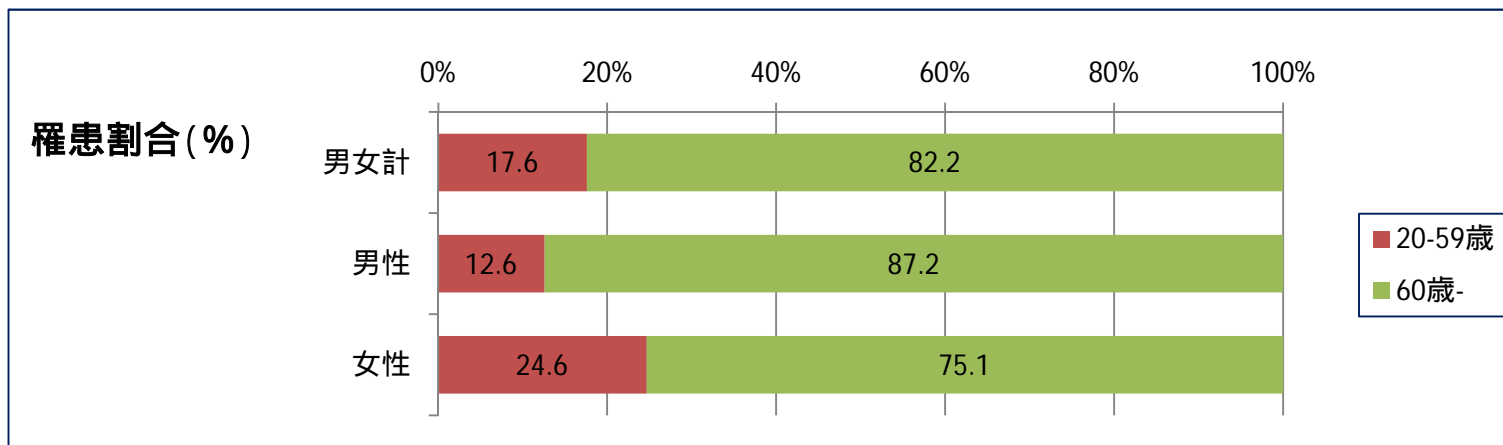
# まとめ

## 4. 年齢階級別・男女別罹患数、罹患割合

年齢別にみると、60歳以上が、4,701件で全年齢の82.2%を占め、就労年齢の多い20 - 59歳は、1,005件で、割合は17.6%となっている。

男性では、60歳以上が、2,918件、87.2%、20 - 59歳が、421件、12.6%となっている。

女性では、60歳以上が、1,783件、75.1%、20 - 59歳が、584件、24.6%となっている。





# まとめ

## 5 . 年齢階級別罹患率

男性は50歳代後半から罹患率が急激に上昇し、その後も加齢に伴い上昇している。

女性は、乳がん及び子宮頸がんの罹患が、20歳代、30歳代から高くなることから、20歳～40歳代後半までは、男性より罹患率が高いが、50歳代後半で男性の罹患率と交差し、その後は緩やかに増加する。臓器別にみると、男性は、50歳代後半からどの臓器の罹患率も増加している。

女性では子宮頸がんが20歳代後半から罹患率が急激に上昇し、40歳代後半までピークが続く。

また、乳がんは30歳代前半から上昇し、40歳代後半でピークを迎える。子宮頸がんと乳がんは若い世代に罹患率が高い特徴がある。

# まとめ

## 6. 臓器別発見経緯

「上皮内がんを除くがん」の発見経緯は、全部位で「がん検診」5.5%、「健診・人間ドック」12.7%、「他疾患の経過観察中」28.3%、「その他・不明(症状受診含む)」53.5%であった。

「がん検診」と「健診・人間ドック」によるものを合わせると18.2%が健診等で発見されたものであった。

この健診等で発見されたものを臓器別にみると、「甲状腺」52.7%、「乳房」32.2%、「子宮頸がん」30.1%、「前立腺」28.2%、「腎・尿路」23.8%の順であった。

「上皮内がんを含む」発見経緯では、「子宮頸がん」が43.4%、「乳房」が34.46%で、健診等での発見率が高い。